

第1学年における「話し合い活動」のモデル例

- 1 議題 「みんなが仲良く楽しめる『わくわく集会』の計画を立てよう」
- 2 本時のめあて
 - ・ 友達と仲良く話し合いながら「わくわく集会」の計画を立てることができる。
- 3 本時の実際 (◆は司会者, ◇は児童の発言の例)

提案理由	私は、みんなと もっと楽しく遊びたいです。だから、1年〇組のみんなが仲良く楽しめるお楽しみ会ができたらいいなと思いました。
活動内容	
1	はじめの言葉
2	歌
3	司会者グループの紹介
4	議題の確認
みんながなかよくたのしめる「わくわくしゅukai」のけいかくをたてよう。	
5	提案理由の説明
6	話し合いの進め方の確認
7	めあての確認
ともだちのいけんをしっかりきこう。	
8	先生の話

9	話し合い
(1)	計画委員会で決まったことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ わくわく集会は、来週の学級会の時間にします。 ◆ わくわく集会をする場所は教室です。 ◆ みんなで楽しい遊びをします。
(2)	わくわく集会で何をするか話し合う。(柱1) <ul style="list-style-type: none"> ◆ 今日は最初にわくわく集会でどんな遊びをするか話し合います。考えてきた意見を発表してください。 ◇ 私は、イス取りゲームをしたいです。 ◆ みなさんは、どう思いますか。 ◇ 賛成です。みんなでできるからいいと思います。 ◆ では、イス取りゲームはすることにします。 ◆ ほかにしたい遊びはありませんか。 など
(3)	わくわく集会に必要な係を話し合う。(柱2) <ul style="list-style-type: none"> ◆ わくわく集会は、どんな係がいると思いますか。 ◇ 「すすめ係」がいると思います。 ◇ 賛成です。「すすめ係」がいないと、次に何をするかわからないからです。 など
10	決まったことの確認 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 今日の話合いで決まったことを発表します。

11	めあての反省
12	先生の話

本時の展開例は11月を想定した。10月の運動会終了後、司会等の役割を教師から児童と教師の合同へ移行する計画である。
議題と話し合いの柱は、本時3日前の第1回計画委員会で選定し、翌日の朝の会で全員の承認を得て、学級会コーナーに掲示した。また、児童には、事前にワークシート等に議題に対する「自分の考え」を準備させる。

司会者グループは児童の実態を考慮し、「すすめ係(司会)、たすけ係(副司会)、はりもの係(記録)」というような呼称も考えられる。また、紹介の際に、役割遂行の意欲を高めるため全員の拍手を促す。

話し合いの進め方や約束、基本的な話型を載せた「話し合いの進め方カード」を活用させ、話し合いの流れや活動の見通しを確認する。

低学年の場合は、話し合いに入る前に教師がこれまでの流れを整理し、話し合いの進め方等を確認する。また、児童が意欲的に話し合い活動に参加できるようにするために、教師の議題に対する思いや、これまでの集会活動のよさを話す。

発達の段階や学年の内容、「互いの話を集中して聞く」などの国語科の指導事項を踏まえ、よりよい発表ができるように具体的な例を挙げて助言する。

- ・ できるだけ自分なりの理由や考えをつけて意見を発表させる。
- ・ 自分の意見を押し通そうとするのではなく、友達の意見もしっかり聞いた上で自分の考えを変えることも大切であることを助言する。
- ・ 提案理由を考慮した発言や話し合いに積極的に参加している児童には称賛を与える。など

教師の話で、以下の三点をおさえる。

- ① 話し合い活動の評価
- ② 人間関係づくりの視点からの評価
- ③ 次時の実践活動への意欲付け

【参考文献】

文部科学省 小学校学習指導要領解説 特別活動編, 国語編(H.11)(H.20)
東洋館出版社 小学校学習指導要領ポイントと学習活動の展開 特別活動(H.20)